

2-9

主題	認知症ケア専門士を活用した施設内研修の取り組み
----	-------------------------

認知症ケア	副題	新人職員基礎研修を通じて。
施設内研修		

研究期間	5ヶ月	事業所	東京武蔵野ホーム 小茂根の郷
発表者：井上 弥生 (いのうえ やよい)			

共同研究者：認知症ケア専門士（稲田・十時・高橋）

電話	03-3959-7421	メール	jimu@komonenosato.com
FAX	03-3959-7438	URL	同上

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	<p>社会福祉法人小茂根の郷は板橋区に平成9年に開設しました。特別養護老人ホームでは60床あり、併設し7床のショートステイを受け入れています。日々のレクリエーション活動でご利用者の生活を充実できるようケアを行っています。また、終末期ケアも行っており、最期を施設で過ごすご利用者が穏やかに生活できるよう職員一同協力しケアに努めています。</p>
------------------------------	---

《研究前の状況と課題》

当施設では、職員の目標として「専門職としての専門性を高める」と掲げている。

私は2年前に認知症ケア専門士の資格を取得した。取得のきっかけは、特別養護老人ホームで勤務し認知症について深いところまで学びたいと思ったことである。

私の他にも資格を取得した者がおり、少ない人数ではあったが当施設の目標が後押し私達は、「認知症専門士会」を施設内で立ち上げることにした。

日々のケアの中で高齢者への声かけの点においては、まだ不十分なケアをしている職員もいた。施設の課題として高齢化、重度化してくる高齢者へのケアについて、また認知症ケアの視点から職員が知識とケアの重要性を認識してもらう必要があると考えた。

そこで、私達は1年を通じて2回の勉強会を実施する事にした。

《研究の目標と期待する成果》

勉強会の目的は2種類

1回目は新人職員（1年目～3年目）を対象にしたもので認知症への基礎知識とケアについて。

2回目は、全職員を対象として1回目の勉強会から前進し具体的な認知症高齢者の対応や事例についての勉強会（今後実施予定）勉強会までは、配布用資料作成、講義用の資料作成、寸劇のシナリオ作成・職員の参加人数集め等を主に行った。

今回の勉強会では、1回目の新人職員向け勉強会についての目標と期待になるが、今回の勉強会を通じて、新人職員が認知症高齢者のケアを見つめなおし、自分のケアはどうだっただろう？利用者の立場に立っているか？ということを考え、専門職としての専門性を高めるきっかけになればということに期待した。

《具体的な取り組みの内容》

勉強会の内容について、「認知症とは」と題して約1時間の勉強会を実施した。

施設内勉強会名：「認知症とは？」

対象者：新人・中堅職員（1年目～3年目）

手法：①認知症についての基礎知識（講義）

②長谷川式のデモンストレーション

③職員による寸劇・ディスカッション

①は、主に板橋区の高齢者の現状と脳血管性とアルツハイマーを中心に疾患の説明、また認知症に伴う症状（中核症状）の説明を行った。

②は、長谷川式を用いて実際にケアマネジャーが利用者に行っている長谷川式を職員に体験してもらった。職員に体験してもらうことにより現場で働いている職員が書面や内容でしか理解していなかった長谷川式について学ぶ事ができ、認知症高齢者の立場に立ち理解する事を目的とした。

③寸劇は、職員が【利用者】【職員】【心の声】という役に分けてトイレに頻回に行かれる利用者への対応（悪い例）について実施し、実施後にグループディスカッションを行った。

ディスカッションについての内容は、「どのようにしたらより良い利用者ケアが行えるか」という内容で行い、実際に職員が前に出て利用者への声かけを職員同士で行ってもらった。

《取り組みの結果と評価》

できる限り職員の参加を促す為、2日間かけて勉強会を実施した。2日間の合計参加人数：27名。

①は、感想として「改めて勉強になった」という意見を多くもらった。

②は、職員参加型だった為、勉強会の雰囲気少し和やかになり意見や感想が多くあった。「実際に長谷川式をやっている所を初めて見た」という職員も数多くいた。

③は、寸劇後に職員に「どうしたら、この利用者はトイレに行けますか？」という問いを投げたところ「環境の整備」「声かけの方法を検討」等具体的な内容を意見としてもらう事ができた。また他の部署同士が参加した事により、他の部署でのケア方法をお互いの部署で知る事も同時にできた。

《まとめ》

今回の勉強会を通じて、職員の声を近くで聞く事ができた。認知症高齢者のケアについて、「〇〇したら〇〇する」というマニュアルは存在しない。だからこそ利用者の個別ケアが重要になり、同時に職員の日々のケアの中での観察力の向上が求められる。

今後、アンケート結果を分析し次回の「認知症高齢者への具体的な対応」についての勉強会に生かしていきたい。

《参考文献》

いきいきプロジェクト用読本・板橋区地域別高齢者等の資料

《提案と発信》

介護をする専門職として「プライド」と「品位」を持ち、ご利用者に向き合える人材育成を目指します。

職員自らが学習会を立ち上げ前向きな姿勢は、組織力を高められる大きな要因となっていくと考えます。

【メモ欄】